

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成25年度第2回高松市議員報酬，市長および副市長の給料等審議会
開 催 日 時	平成25年12月26日（木） 午後3時～午後4時31分
開 催 場 所	市役所 4階会議室
議 題	(1) 審議（基本方針の確認） 議員報酬，市長および副市長の給料ならびに政務活動費の額について (2) その他
公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
非公開の理由	—
出席委員	6人（冨田委員欠席） 松本修二（会長），本田典孝（職務代理者），植松瀧子，中條尚子，馬淵キノエ， 與田康子
傍 聴 者	1人
担 当 課 目 お よ び 連 絡 先	総務課 （Tel 839-2181）

【経過および結果】

1 追加資料の説明

第1回審議会において委員から要請のあった「審議会答申を受けての市長および市議会議長コメント」および「答申済み5市の条例と今年度諮問事項等」について事務局から説明を行った。

2 市長・副市長の給料の額，議員報酬の額ならびに政務活動費の額について審議を行い，次のとおり意見が集約された。

(1) 市長・副市長の給料の額

据置き

(2) 議員報酬の額

据置き。ただし，一定の期間，減額措置を求める。

(3) 政務活動費の額

据置き

【主な質疑応答】

○市長・副市長の給料の額および議員報酬の額について

松本会長）市長・副市長の給料の額，議員報酬の額を分けずにまとめて議論する。

馬淵委員）前回の答申を受けての市議会議長コメントの中で，「答申に沿う意見もあったものの，結果，議員報酬の額は現行どおりとすることとした」とある。この経緯を詳しく知りたい。

鴨井課長）現在国家公務員の給与は平均7.8%カットされ，全国の自治体においても一般職員の給

与を減額し退職手当も減らす傾向にある。この状況の中で議員だけ今までどおりではいけないだろうという意見が議員の中から出たようであるが、その一方で、議員としてそれだけ職責の重い仕事をしているので現在の議員報酬の額は適当であるという意見もあり、議員の中でも従来以上に議論がなされたようである。最終的には各会派会長会で議論し、据置きという結論に至ったものである。馬淵委員）前回の答申を受けての市議会議員コメントの中で、国家公務員と地方公務員の給与を比較したラスパイレス指数について触れているが、国会議員と地方議員の報酬を比較したデータはあるのか。

鴨井課長）国会議員のデータを持ち合わせていないので、比較することはできない。

馬淵委員）議員の報酬比較の方法としては、他市の議員の報酬との比較しかないということか。

鴨井課長）資料に基づき他の中核市との比較による高松市の議員報酬の状況について説明。

馬淵委員）前回の答申を受けての市議会議員コメントの中で、任意の会議が増加傾向にあるという記述があるが、証明するものが何もない。正当な理由としては、根拠がなく弱い。

鴨井課長）各議員の出席する任意の会議については議会事務局も把握できていない。議長・副議長は各種団体等から会議出席の要請がある関係で、日程調整の都合上ある程度把握していると思われる。

本田委員）市長・副市長その他の特別職および職員は、高松市の厳しい財政状況を踏まえて人件費の圧縮を図ることを目的に減額措置を行っている。また、本年7月から地方交付税の一部カットにより住民サービスの低下を生じさせないため、自主的に減額措置を実施している。難局を打開するため重ねての減額を行うというこの一連の判断を、私自身は非常に評価している。よって市長および副市長の給料の額については、据置きが適当であると考え。一方、議員報酬については、議員定数削減によって議員一人当たりの人口比率が上がっていることや複雑多様化する市政運営上の諸課題に対応するため、議員の活動範囲が拡大していることは理解できるが、国が復興最優先で地方交付税減額を行い、高松市が責任を果たすべく職員を含めて率先して対応しているという現状を踏まえて、議員には自主減額を求めたい。私自身は昨年度と同じ内容の答申が適当と考える。

與田委員）本田委員と同意見である。市議会議員コメントの中にも答申に沿う意見もあったとあるので、議員報酬については昨年度と同じ内容の答申が適当と考える。

植松委員）本年7月25日の新聞に平成24年度の高松市決算として66億円の黒字という記事が掲載されていた。議員報酬の比較については、地理的状況や新幹線の沿線にあるか否か等高松市と他の中核市では状況が全く異なる。高松市が発展をするためには、費用もエネルギーもかかるので、議員報酬についてももう少し手厚くしてもいいのではないかとというのが私の意見である。

松本会長）議員報酬について、改定までは必要ない。減額措置を求めるのもいがかという趣旨でいいか。

植松委員）そのとおり。

岡本局長）現在高松市は合併による地方交付税の特例措置を受けているが、合併から10年を過ぎると減額されることが決定しており、額としては50億円以上である。また、先日、国の2014年度予算案が示されたが、その中で社会保障費が30兆円に上っており、当然地方にも影響があり、民生費の増加が予想される。本市は平成25年12月に社会保障・福祉関係の財源として10億円の基金を設置することを決定しており、66億円の黒字といっても余裕のある状態ではない。

中條委員）市の厳しい財政状況の中で一般職も減額を行い、市長・副市長も自主減額を行っている。

議員にも自主減額を求めたい。

馬淵委員) 議員報酬について減額措置を講じてほしい。市議会議長コメントの中で、「議員報酬の額は平成9年以降据え置かれ」という記述があるが、この表現から議員の中に議員報酬を増やしてもいいのではないかと考えている人がいる印象を受ける。減額措置を求める答申に沿うべきだという議員とでは、経済状況や市の財政状況に対する受け止め方が感覚的に全く異なっていると感じる。本審議会では何度となく議員の報酬に関して減額措置を講じてほしいと言い続けてきたが、今後も言い続けなければならないのではないと思う。結論として議員報酬については減額措置を講じてほしい。

鴨井課長) 市議会議長コメントの中にある平成9年以降据え置かれという表現は、四国4市の中で高松市以外の3市が議員報酬を平成9年以降に一度増額していることおよび中核市の中での高松市の順位を踏まえての意見だと思われる。

松本会長) 四国4市中3市が平成9年以降で増額した理由。

鴨井課長) 理由については把握できていない。

松本会長) 議員の期末手当の減額は、議員のみの自主減額か。

鴨井課長) 人事院勧告に基づいて、職員とともに減額したものであり、議員のみの自主減額ではない。

松本会長) 市長・副市長の給料にしても、議員報酬にしても相応の額が支給されるべきだろうと考える。金額を決めるには、他市の状況なり、全体的な流れなりを踏まえたバランスのとれた感覚で議論をしていく必要がある。私自身、本審議会は非常に重要な役割を果たしていると考えているので、各分野から選ばれた委員それぞれの意見を集約しながら、時間の許す限り議論し本審議会として方向性を示していきたい。

植松委員) 高松市の活性化を期待しているので、議員には頑張ってもらいたいとの想いがあり、議員報酬についてももう少し増やしてもいいのかなという思いもある。

本田委員) 議員報酬だけをとらえると少ないよりは多いほうがいいというのは理解できるが、今回は復興最優先で国が地方交付税の減額措置を行っている非常事態なので、この流れに乗っていただきたい。

與田委員) 植松委員の気持ちもわかるが、人件費の抑制のため一般職の職員も含めて減額している現状を踏まえて判断していただきたい。

中條委員) 一般企業の感覚では額等についてどのように感じるのか。

本田委員) 市長・副市長および議員の報酬額だけを見ると決して高くはないと思う。しかし、国の水準、地方の水準が決まっている以上増額は不可能である。また、今回地方交付税がカットされ、その穴埋めをするべく市長・副市長・特別職および一般職員が現在減額を実施している状況があるので、議員も当然合わせて減額していただきたい。

松本会長) 議員側からすれば、業務内容に対して報酬が低いと感じるのかもしれないが、社会的に見てそれほど低い金額ではない。市長、副市長、一般職の職員が重ねて減額を行っている中で、議員だけそのままというのはバランスが悪く、不自然だというのが私の率直な感想である。

馬淵委員) 議員報酬に関して、今の状況は市民の共感を得られるものではない。議員報酬については、自主減額を行い、精力的に活動している議員には、事前に活動内容を提示してもらい、政務活動費で費用を支給する方法を提案してはどうか。

松本会長) 政務活動費で調整するということか。

馬淵委員) 政務活動費について、現在の一律月10万円ではなく、申請すれば現在と同程度の金額を支給するが、先に使途を明確にし、成果も後から提出してもらおうというやり方をしてはどうか。

本田委員) 活動内容を評価するというのは難しい。

松本会長) 議員の職責は非常に重要であり、議員にはますます活躍していただきたいというのが委員の共通認識である。報酬減額という判断は簡単ではないと思うが、踏み切っていただきたい。

植松委員) 中核市で常に横並びでなければいけないというのが腑に落ちない。

松本会長) 他の市と一律という趣旨ではない。ただ追加資料を見ても、答申済み5市のうち2市は議員自ら自主減額を行っている。市長、副市長の減額措置と足並みを揃えながら議員にも減額措置を求めるのはどうか。

植松委員) 松本会長の意見に賛同する。

松本会長) それでは、議員報酬の額については据置きとするが、一定期間の減額措置を求めることとし、市長、副市長の給料については据置きということで意見集約する。

○政務活動費の額について

馬淵委員) 活動内容を評価するのは、難しいかもしれないが、不可能ではないと思う。一つの方法として市民代表の方に加わっていただき評価いただくのも良いのではないかと考える。政務活動費全額ではなく、少なくとも戻入相当分については議員の活動に応じて按分する方法を検討してはどうか。

松本会長) 馬淵委員の意見としては、政務活動費の額は変更せずに、按分の仕方を変えるという意味合いで捉えてよいか。

馬淵委員) 按分の仕方、中身を変えるという意味である。

鴨井課長) 馬淵委員が提案されているやり方だと、評価する側がすべてを把握していないといけないということ、他の議員と比較して評価しなければならないという点において評価の仕方が難しいと思われる。また、現在活動費の支給方法として、先に活動費を支給し、後で残余金を返還してもらい精算するやり方をとっているが、馬淵委員から提案いただいた方法でも活動費の支給方法としては現在と同じになってしまう。活動前に活動費を渡さずに終了後書類を全部そろえてから費用を請求する完了払いという方法もあるが、なかなか難しい。評価の方法と活動費の出し方・精算の仕方について今後検討する必要がある。本審議会では委員から意見が出たことは議会に伝えるが、私自身はこのやり方は実務的には難しいのではないかと思う。

松本会長) 前回の答申の中で政務活動費に関して、市民に分かりやすい広報や公表の方法を検討し、積極的に情報提供することを望むという文言を加えていたが、どのように改善されたのか。

鴨井課長) 資料に基づき、使途の透明性の確保策、政務活動費の戻入状況について説明。

與田委員) 政務活動費については、使える幅も広がっているので有効に使ってほしい。

植松委員) 政務活動費については、額は据置き、有効に活用してほしい。

中條委員) 使途基準の運用方法で幅が広がった部分は具体的にどこか。

鴨井課長) 資料に基づき説明。

中條委員) 政務活動費の使途として、会議等に出席した場合、交通費、宿泊費等で使ってしまう気もするが、領収書を提出する際は、会議の成果等を示したレポートも同時に提出しているのか。

鴨井課長) レポートも同時に提出している。ただ市民の目に直接触れる形ではなく、情報公開請求が出てくれば対応するという状況である。さらに26年度から新たな試みとして議員別収支状況一覧表をホームページに掲載し、使途の透明性の確保にあたるとしている。

中條委員) ホームページで成果等を示したレポートも見られるようになることを望む。また、経費の区分ごとに金額の上限を設け、市民の目に触れることにより、有効に使われるようになればいいと考える。

鴨井課長) 現在政務活動費は経費の区分ごとの上限額は定めておらず、どの経費にいくら使うかは議員の裁量ということになっている。

本田委員) 議員一人当たりの人口比率が高まっていること、市民の要求が増え、業務が複雑多様化しているという現状を考慮し、市民の代表である議員が今後市民の期待に応えるべく積極的に活動していくためには、政務活動費は据置きが妥当であると考えている。ただし、使途基準に照らして有効に運用していただきたい。

馬淵委員) 政務活動費の支給方法として活動状況に応じて交付する方法を提案したが、ただちに答申に盛り込むのは難しいと考えるので、今後の課題としたい。政務活動費自体は据置きが適切と考えるが、議員別収支状況一覧表をホームページに掲載するやり方について、収支だけでなく活動の具体的中身がわかるような形にしていきたい。

本田委員) 会議ごとにレポート提出を求める等あまり縛りを設けるのは、議員活動を委縮させる結果になり好ましくないと考える。

松本会長) 本審議会委員の中から、活動の中身の明確化についての意見が出たということ、各議員が意識して活動すれば、趣旨に沿う結果が出てくると考える。政務活動費の額については、減額改定の意見はなく、据え置くこととし、馬淵委員が発言された実績主義が生かされる仕組みの構築と中條委員が発言された活動の中身が確認できる方法を検討されたい旨を付記することで意見集約する。なお、答申書の文案については、これまでの審議を踏まえ、事務局において作成したものを、次回の審議会で審議することとする。

全委員) 異議なし。